

マッカーサーが作った国際基督教大学

2013年3月7日号
週刊新潮 P146

国際基督教大学 (ICU) の創設にあたり、マッカーサーは同大学の財団における
名誉理事長として、米国での募金運動に尽力した。
マッカーサーとしては反共政策として民主化を根付かす目的で大学を設立した。

国際基督教大学は、敗戦後、戦勝国アメリカが
わが日本をキリスト教化とする意図に基づいてつくられた学校なのである。

日本のキリスト教徒がたった20万人と聞いて造り、布教に尽くした。
が、5年後、彼が帰国する時の信者総数は20万人で変わりがなかった。



アメリカ大使館での昭和天皇(1945年9月27日)

マッカーサー自身は、「天皇が、敗戦国の君主がそうするように戦争犯罪者として起訴されないよう訴えるのではないかと懸念したが、昭和天皇は命乞いをするどころか「戦争の全責任は私にある。私は死刑も覚悟しており、私の命はすべて司令部に委ねる。どうか国民が生活に困らぬよう連合国にお願いしたい」と述べたと語っている。

マッカーサーは、天皇が自らに帰すべきではない責任をも引き受けようとする勇気と誠実な態度に「骨の髄まで」感動し、「日本の最上の紳士」とであると敬服した。

マッカーサーは玄関まで出ないつもりだったが、会談が終わったときには昭和天皇を車まで見送り、慌てて戻ったといわれる。

後にも「あんな誠実な人間は見たことがない」と発言している。

戦後の民主化政策とあいまって、
アメリカ型の高等教育機関であるリベラルアーツ・カレッジを設置することにより、
共産主義勢力への戦略的牽制を図ろうとしたと考えられる。

ダグラス・マッカーサー (Douglas MacArthur, 1880年1月26日 - 1964年4月5日)

教授陣は全員がクリスチャンコードを持ち、「神と人に奉仕する」人材の育成を建学の精神とする。

当時左翼系の教授がアカデミズムの主流を占めた日本の大学の中で
アメリカの大学で教えている構造言語学・カウンセリング理論・実験社会心理学・行動主義心理学などをフルブライト留学などでアメリカに留学して学位を取得された先生方が講じられていた。

もともとはICUファミリーと呼ばれる家族的な少人数の大学であったが、
ベトナム戦争中の不幸な数年間の紛争の後にはなごやかな雰囲気は失われていた(今は知らないが)。
全国で初めて機動隊を導入して紛争の解決を行った大学でもあった。